

令和5年度 滋賀県立愛知高等学校
学校評価（保護者・生徒アンケート）に基づく令和6年度の改善策

1 アンケートに基づく評価方法について(通年)

以前は、肯定的評価をした人数の割合をもとにA～Dの4段階で評価を行っていたが、各アンケートのA評価を4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として指標（平均値）を算出し、100点満点に換算した総合点をもとにして、総合評価を行っている。

2 生徒アンケート結果

生徒自身の本年度の振り返り結果を学校に対する評価と読み替えた。その結果、低評価であった項目は次の2項目である。昨年度までの数年間と同じ傾向が続いている。

領域	項目（総合点（昨年比））
特別活動	・私は、部活動に積極的に参加している。 (43.7 (▲6.3))
学校図書館	・私は、図書館を利用し読書している。 (25.0 (3.9))

本年度も上記2項目について、低い評価となった。この2項目以外は、60%台後半以上の評価であり、例年の傾向とは言え、本校の大きな課題である。過年度との比較は、次の通りとなる、部活動：46.0%(R2)→48.7%(R3)→50.0%(R4)→43.7%(R5)、図書館：23.7%(R2)→20.1%(R3)→21.1%(R4)→25.0%(R5)。他の項目と異なり、50%以下の評価が連続している。項目「睡眠時間や食生活など規則正しい生活を送っている」については、肯定的評価がやや上昇傾向を示している。59.6%(R2)→55.6%(R3)→60.0%(R4)→67.3%(R5)。

また、朝食抜きで登校する生徒の割合は依然として高い。放課後から21時ごろまでのアルバイト、友人宅での外泊、深夜に至るスマートフォン等の操作がかなり影響しているのではないかと考える。

3 保護者アンケート結果

保護者アンケートにおいては、昨年度の結果を今年度と同様の方法で評価した場合と比べても、大きな変化はなかった。

項目ごとに見ると、「特別活動等」領域の「生徒会行事を、生徒の主体性が現れるように運営している」において、肯定的な回答の割合はやや好転してきている。86.0%(R1)→75.8%(R2)→76.8(R3)→76.7(R4)→81.3%(R5)。

項目「生徒に読書の習慣を身につけさせ、豊かな情操を育てている」については、生徒アンケートで見られた結果と同様に、低い評価となっている。保護者から見ても、本校生徒の読書への興味・関心の低さは課題として認識されているものと判断する。

4 令和6年度の改善策

以上の結果を踏まえ、令和6年度は次の事項について取り組んでいく。

- (1) オリエンテーション機能の重要性の再認識による指導の充実
部活動の入部や図書館の使用に係る入学直後のオリエンテーション機能の重要性をあらためて認識し、丁寧な指導・奨励に努める。(通年実施)
- (2) 生徒会行事への生徒の主体的参画の強化
生徒会行事等により主体的に生徒が関わられるよう、決定に向けた過程での情報発信に努める。(高等養護との連携をより充実する。)
- (3) ひとり一台端末(BYOD)のより一層の活用と定着を図る。他校の状況を参考にして、端末重量や充電の容易さ等の観点で、端末の機種について見直しを行う。
- (4) 学校からの情報発信の充実
学校の教育活動についての理解がより得られるよう、学年通信や学校HPの充実、緊急連絡用メール(まちコミメール)の一層の活用を図るなど、引き続き、保護者等・生徒や地域に対して学校からの情報発信を強化し、連携強化を図る。